

平成27年度 新発田・北蒲生活科部 活動報告

部長 加藤 亜由美

1 研究主題

自分の思いをもち、いきいきと活動する子どもの育成

2 研究の概要

子どもたちがいきいきと活動する姿、活動を通して気付いたことを素直に表現する姿を目指して研究を行った。また、授業研究に向けて、講演会を実施した。

3 研究の実際

4月 研究テーマ・活動計画の立案

6月 講演会「生活科に関する講話、授業研究に向けて」

講師：阿賀野市立京ヶ瀬小学校 相馬 重輔 様

1 1月 授業研究

2年 単元名「あきのおくりもので おもちゃをつくろう」

授業者：新発田市立猿橋小学校 水野香代子 先生

指導者：阿賀野市立京ヶ瀬小学校 相馬 重輔 様

○本時のねらい

計画カードをもとにおもちゃを作ることを通して、工夫することの楽しさに気付く。

○本時の構想

①おもちゃ計画カードを発表し合うことで意欲を高める。

②材料を十分に準備する。

③試行錯誤や繰り返す活動を設定する。

④おもちゃ作りを振り返る場を作る。

4 成果と課題

<講演会>

○生活科について、講師の先生の経験を交えながらお話しいただいた。「子どもの遊びは学び」であり、無駄なことは一つもないことが分かった。

○主体的な活動を通して、個々に「気づき」が生まれる。その「気づき」の質を高めること、深めることなどをお話しいただき、参考になった。

<授業研究>

○「計画カード」が、細かく丁寧に書かれていた。子どもたちは見通しをもって、活動することができていた。

○どんぐりやまつぼっくり、カップなど、材料が豊富に準備されていた。一人一人の作りたい思いが叶えられる環境になっていた。

○「おためしコーナー」で、子ども同士が交流していた。おもちゃの工夫や改善につながった。

△本時の「ねらい」が明示されているとよかった。黒板等に「ねらい」が示されていると、その都度、確認することができる。

△せっかくグループができているので、グループ内で振り返るなど、グループを生かしての交流がもっとあってもよかった。

△1年生段階では、ゴールは「作りながらはっきりしていく」のかもしれない。



ご指導

主に以下の点についてご指導いただき、今後の研究に向け大変参考になった。

- ・子どもたちは「おもちゃカーニバル」というゴールを目指して、相手を意識したものを作っていた。子どもならではの工夫があった。誰に向けて作るかで工夫の仕方が違ってくる。
- ・子どもたちは、カードに何を作るのか、しっかりと計画を立てていたので集中して取り組んでいた。そういった場合、教師は子どもにあまり声をかける必要はない。
- ・発問と指示について。「発問」は学習活動を進める上で重要。「指示」には、「学習活動に直結した指示」と「学習活動を支える指示」の2つがある。「指示」は5つ以内にとすると良い。情報が多いと子どもが混乱することもある。